

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	理工学研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 広報活動を充実して後期課程の入学者の確保に努め、必要があれば定員の見直しを行う。	→後期課程の定員充足率。後期課程進学状況。	C	C	C	C	C
2. 入試形態ごとの学生の受け入れ方針を明文化し、社会に周知する。	→受け入れ方針を明記した各入試の募集要項やホームページ。	B	B	B	B	A
3. 学生の受け入れ方針を定期的に検証する大学院委員会を設置し、問題点があれば改善していく。	→大学院委員会設置の有無、当該委員会の開催回数、検討改善の状況。	C	B	B	A	A
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院委員会を設置し、そのメンバーが中心となり各年「大学院オープンキャンパス」を実施することで学生確保に努めた。大学院オープンキャンパスの案内は、大学内外に配布することで学外からの募集も積極的に行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 後期課程の収容定員に対する在籍学生数比率は、2010年度54.4%、2011年度56.1%、2012年度52.6%、2013年度41.9%、2014年度49.2%であり、定員割れの改善ができていない。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 奨学金制度の見直し、および社会人学生・留学生の積極的な確保が改善策として考えられる。大学全体の問題として積極的なアクションをとっていきたいと考えている。	☆
		その他	☆

目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院委員会メンバーが中心となり理工学研究科の受け入れ方針を設定し、各入試の募集要項、およびホームページに掲載した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各種入試の募集要項やホームページに理工学研究科の「求める学生像」を含む受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を明記している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も引き続き維持していく。	☆
		その他	☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 理工学研究科委員長のもと大学院委員会を設置し、各年5～8回開催することで学生の受け入れ方針を定期的に検証することにより改善を行ってきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 大学院委員会の設置により、受け入れ方針を定期的に検証するシステムができ、問題がある場合は随時改善することが可能となった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も引き続き維持していく。	☆
		その他	☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【理工学研究科】		前期/後期課程	単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	入学定員	前期課程	名	133	133	133	147	147	・5/1現在
		後期課程		19	19	19	20	20	
指標2	志願者総数	前期課程	人	152	197	205	198	154	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		8	11	9	6	11	
指標3	合格者数	前期課程	名	131	163	164	172	132	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		8	11	9	6	11	
指標4	入学者数	前期課程	名	123	148	148	155	120	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		8	11	9	6	11	
指標5	志願者倍率	前期課程	倍	1.1	1.5	1.5	1.3	1.0	・5/1現在 ・志願者÷入学定員
		後期課程		0.4	0.6	0.5	0.3	0.6	
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	前期課程	倍	0.99	0.95	1.01	1.01	1.00	
		後期課程		0.48	0.52	0.48	0.45	0.46	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	49.6%	48.6%	35.1%	41.4%	40.8%	・5/1現在 ・一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		87.5%	81.8%	77.8%	66.7%	100.0%	
指標8	収容定員	前期課程	名	266	266	266	280	294	・5/1現在
		後期課程		57	57	57	62	61	
指標9	在籍学生数	前期課程	名	247	279	300	314	284	・5/1現在
		後期課程		31	32	30	26	30	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	前期課程	%	92.9%	104.9%	112.8%	112.1%	96.6%	・5/1現在
		後期課程		54.4%	56.1%	52.6%	41.9%	49.2%	